

# 一手になる気



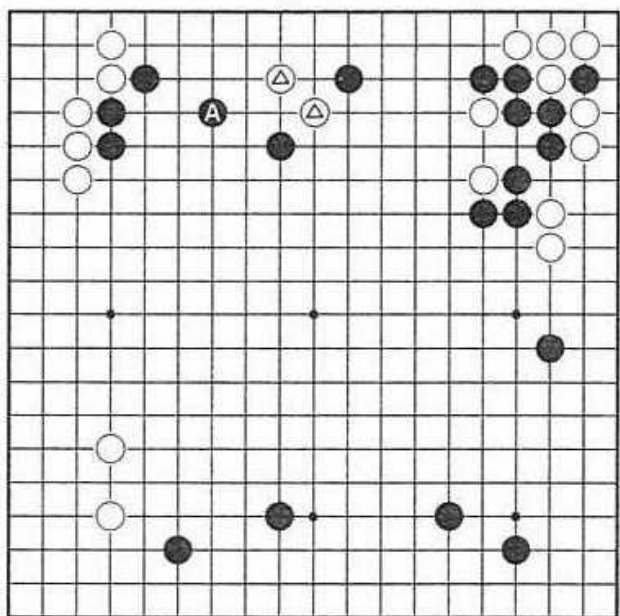
囲碁棋士

## 青葉かおり

囲碁界では、夫婦共に棋士、という方が多くいらつしやいます。棋士は幼いころから同じような修業時代を経験しているのです、お互いに気心も知れてわかり合えるためだと思えます。棋士にとって囲碁とは、寝ることや食えることとほぼ同義なので、その辺りをわかってくれる方だと一緒に生活していても楽な気がします。

さて私の場合、なぜか、夫は法律家です。囲碁も殆ど打てません。思い起こせば、そもそもの出会いは高校時代でした。

あれは高校の入学式の日、私は期待を胸に新しい教室に入りました。黒板に貼られた出席番号表で



自分の場所を確認。私は名字が「あおば」なので女子の一番でした。「いつもの一番前の席だぎゃ」

席に着いていると、立ったままじっと私の方を見る男子生徒に気づきました。あまりに注目されるので、落ち着かない気分。その後も、男子生徒はしばらく私を見つめてから、意を決したようにつかつかと近づいてきました。

(きゃー)

心の中で悲鳴を上げる私の前に立ち、彼はこう言いました。

「そこ、僕の席なんですけど……」  
(にやに！ そんなことかね！)

それから10年後。再会したその彼と、縁あって結婚することになりました。ちなみに結婚式の挨拶で夫は、

「出会った時から、(自分の席を?)尻に敷かれていますか……」  
と言っていました。

図は今期の天元戦から。黒は今村俊也九段、白は溝上知親八段の対局です。今、黒Aと打ち、白△の2子にプレッシャーをかけています。白は、黒模様の中をただ逃げるだけでは苦勞しそうです。工夫したいところですが、白の次の一手は？